

大腸がん検診受診率と大腸がん死亡率

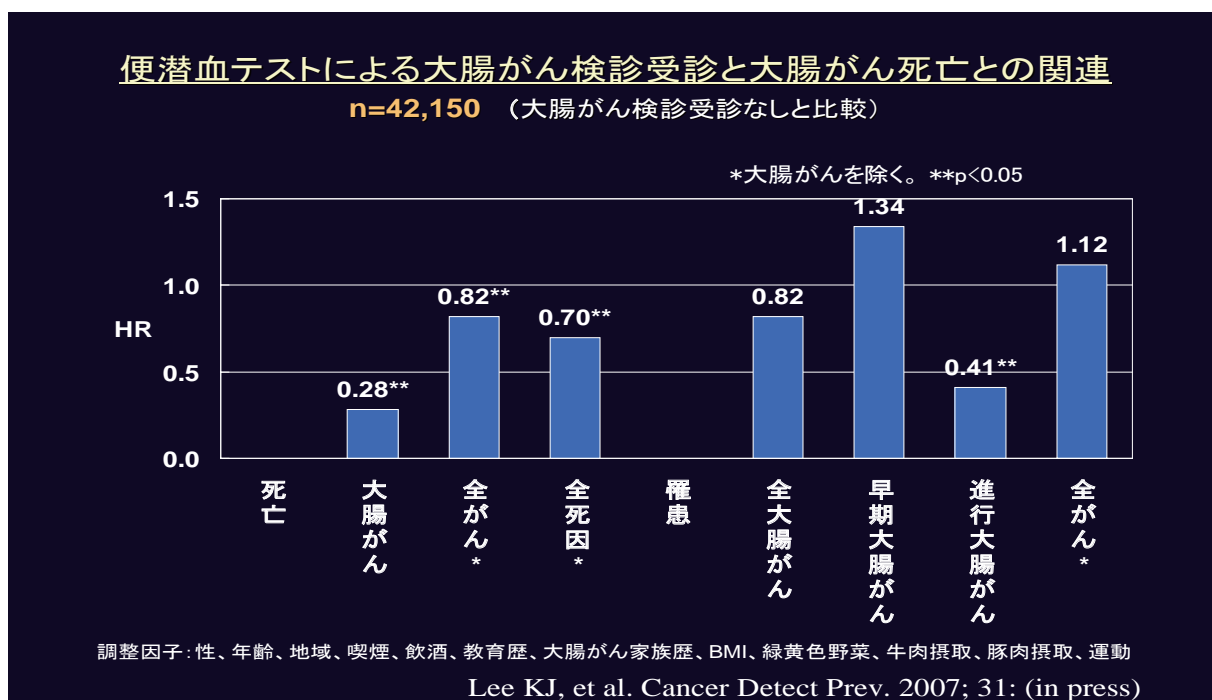
(便潜血検査を受診した人としなかった人の、大腸がんで死亡するリスク)

文部科学省 社会システム改革と研究開発の一体的推進

1990年開始の多目的コホート研究の成果より

- ◆対象者：40歳から59歳の男女約4万人
- ◆研究開始前の1年間に大腸がん検診（便潜血検査）を受診した方：全体の17%
- ◆受診した群と受診しなかった群で、その後の大腸がん死亡率などを比較
- ◆平均で約13年の追跡期間中に、597人が大腸がんにかかり、132人が大腸がんにより死亡

大腸がん検診を受けた人では、大腸がんによる死亡率が低い



大腸がん検診を受診しなかった群に比べ、受診した群の結果は....

- ◆大腸がん死亡リスクが0.28と70%低下
- ◆大腸がんを除くがん全体や死亡全体でみた場合の死亡率も20%~30%低下
- ◆進行がんでみつかるとのリスクは0.41と60%低下

大腸がん検診を受診した群は

大腸がん検診を受診した群では、がん全体、死亡全体でみてもリスクが低いことから、健康的な生活習慣を維持していらっしゃる方が多いことがうかがえます。ただし、それを差し引いても、大腸がんリスクはさらに大幅にリスクが低いことから、やはり、大腸がん検診を受診することが、将来の大腸がんによる死亡率の減少につながるというでしょう。

検診だけでなく、予防も心がけましょう

便潜血検査では、約7%が「精密検査が必要」という判定を受けます。この場合、必ず精密検査を受けることが求められます。精密検査の方法は、何種類かありますが、全大腸内視鏡検査が基本です。このような経過を含めて、便潜血検査による死亡率減少効果が認められています。

運動不足と肥満を解消し、禁煙し、お酒や牛・豚など赤肉の大量摂取を控えるなど、大腸がんの一次予防を同時に実践して、そもそも大腸がんにならないように、努力していくことが大切です。